

「何なん、難、難病～7月22日12時頃の夢～」に寄せる詩

「いったい何なのコレ!？」とやるせなくて憤る、まんまと引いたハズレくじ、受け入れがたき現実・・・

生きているかぎり誰もが1度や2度は経験する信じられないような悪夢というものがある
苦しみとは肉体的なものだけでなく精神的な苦しみも重なり合う、「とにかくこの辛さから逃れたい」と
ただそれしか考えられない状況に出くわすと、夢ならよかったのにと願うもの

本当の夢を見ることもある、そう夢の中でならもうここにはいないはずの人にも出会う・・・
「例え死んでも、そこは苦しみの無い世界が待っている」というメッセージは「死は恐れるに足らず」という声

かと言ってじゃああの世界へ「今」行くべきなのかと自問するとどうも「NO!」と言っている、死は怖くない
のだから問題ではない、
では何が問題なのか?・・・「生」である、夢から覚めるべきなのだ
苦しいことだらけにまみれ私はまだ「生きている、死んではない」、怖いことばかりの現実世界で「まだ生
きている、死んでない」

どうしてだろう?!・・・ここに目を向けてはいなかった

とはいえ状況からすると地上で生きれるのはそう長くはないみたいだ・・・ところで誰でも皆決してこの地で
生きる年月はさして長いというわけではないのでは無かったか?・・・そうなんだ私に限ったことではない

ならば見て終わるだけの夢ではなく、実現するための夢を見よう!
見せられて踊らされる夢ではなく、自分から選んだとっておきの夢を!

私は「楽になりたかったわけではない」ということに今、気づいた。苦しみがく理由があることに気づいた。
それなくしては到達できない場所、それなくしては成し遂げられない夢が次から次へと見えて来た・・・

果てしなくしんどいかもしいろんな、とてつもなく痛いかもしれない、とめどなく泣くのもかもしれない、
だけど最も価値のあるものというのは、そういうことの先にある・・・そんなことは誰もが本当は初めから分
かっていたこと

私はもう、苦しみ悶えることを怖がらない・・・なぜならその先にこそ、宝が隠されているからだ

そこにたどり着けないように、邪魔する奴がいる、私に苦しみを与えてね、もうダメだと思わせて、頑張る意
味自体を忘れさせて

・・・当然のことだ、それだけとてつもなく素敵な宝物が隠されているからだ!

きっと神様は目に涙をうかべ微笑まれるだろう

「本当のお前は、そんな程度で終わる子じゃない。見くびらないでおくれ。私はお前なら出来ると信じているよ!」と